

臨床腫瘍多職種研修会アンケート

開催日時：令和7年2月20日（木）17時～18時

◆職種について

回答人数 44人

医師(2人)、薬剤師(0人)、看護師(31人)、MSW (2人)
その他（心理士1人、管理栄養士1人、事務4人、
ドクターズクラーク2人、不明1人）

◆研修会の評価について

	全く良くな かった	あまり良 くな かった	普通	良かった	非常に良 かった	
研修会の日時や会場は、良かったですか。			3	12	29	
	全く添って いない	あまり添って いない	普通	添っていた	非常に添 っていた	
この研修会の内容は、あなたのニーズ・期待に添っていましたか。			2	12	30	
	全く理解 できな かった	あまり理 解でき な かった	普通	理解 できた	非常に理 解でき た	
この研修会のねらい、内容について理解できましたか。			2	13	29	
	全く役に 立た ない	あまり役 に 立た ない	普通	役に立 つ	非常に役 に立 つ	
この研修会で学んだことは、日頃の業務の中で役に立ちますか。			1	4	8	31

◆研修会を受講されてのご意見・ご感想をお聞かせください。

- ・在宅で過ごすことが、家族への負担になってしまおうと考えてしまう。家族・本人の気持ちを表現してもらうことは、医療者として難しいと思いました。
- ・仕事で取り組むことは現在の仕事では難しいが、自分の家族がそうなった場合、どういう取り組みをするべきか勉強になりました。
- ・患者（家族）と常に誠実に向き合い、相手の気持ちを受容し分かってくれる看護師になりたいと思う。
- ・実例がありイメージがしやすかったです。
- ・20代の患者さんが多いことに驚いた。
- ・板ばさみの状況は、臨床の場でもありました。NSとして上手な話し合いの場、コミュニケーションスキルが必要だと思いました。
- ・素晴らしいお話でした。実際には、なかなか踏み込めない（司会をすること）で、とても怖い気持ちもあります。自分の感情を入れずに聴くことはとても難しいです。日々の積み重ねだと分かりました。在宅医としてここまで関係を作られていること、とても素晴らしいことだと思います。私ももう少し頑張ります。
- ・最期をむかえるにあたって、それぞれの思いがある中で、本音で直接コミュニケーションをとっていくことが重要であると学んだ。またNSは司会をやる等、サポートにまわる方法もあるんだなと感じた。
- ・本音で話し合える場を作りたいと思っても、なかなか難しいと感じています。感情を入れない、沈黙、待つ姿勢ができるように研鑽を積んでいきたいと思います。
- ・終末期だからこそ、本音で話し合える場を作ることの重要性を感じた。
- ・自分の周りでも症例に似た葛藤を抱えた人がいたので、声かけや対応の仕方、自分の心のあり方等学ぶことができました。
- ・具体的な関わり方の講義が良かった。
- ・本音で話し合える場を作る心に響きました。作る側になるよう日々学んでいこうと改めて思いました。
- ・司会の役割を今まで負担に感じていましたが、実際のお話しを聞くことができ、看護師の素晴らしい役割だと感じました。聞くという大切さを感じました。
- ・在宅医療へ移行した患者さんの経過を知ることができ、退院後の経過など知る機会はあまりないため、知ることが出来て良かった。病棟で出来ること、思いの表出があった際には、在宅へつなげることができるよう共有していきたい。

- 分かってもらえたと感じてもらいたい。
- 苦しみの解説があるといいなぁと思いました。解説が不十分で誤解されてしまうのではないかと心配になった。
- 実際の会話を聞くことが出来て、とても勉強になった。
- たくさんの患者さんを診てこられた中での事例の話は、とても説得力があり勉強させていただきました。
- 具体的な症例を聞いて良かった。援助的なコミュニケーションの手法の実際を聞いて学びになった。

◆あなたが研修会を開催される立場となった場合、今回の研修会で改善をしたら良いと考えられる点がありましたら、お聞かせください。

- 17：15~くらいだと業務後に間に合っただけなのかなと思いました。
- 在宅へ移行する際、これまで以上に患者さんご家族と信頼関係を築ける関わりがもてるよう、結果がでなくても待てる姿勢を心がけたい。
- 会場が寒かった